

國民を造り依て、邦家の深憂を除去し國家

兒童衛生展覽會を

兒童の保健に關する思想を普及させるは内務省主催の衛生展覽會が教育博物館に開いた。階上階下を通じて全體を六部に分け出しの内容の充實してゐることは月並な挿でなく、且つ興味上からも足を止めるものりました。順路により参考になるものを畫すと、先づ第一部は階上の妊娠分娩の部と専門家の研究の中にも磐瀨博士は畫入りで心得を懇切に通俗的に説明し、木下博士はに歌にして、

一、食物はふだんの儘で支^{ツカ}なし毒立て等^け知る、

二、はき下し食慾無きと腹痛^{ハライタ}とひけつは^堅を受けよ、

三、運動はふだん慣れたる程よりも控目に

十二、落付きて無駄な心配せぬがよし産の時にはそれが大切、

十三、早やくから無理にいきみて疲れるな自然のいきみ待つがよろしい、

十四、いきむなと云はれたならば口あいて深く呼吸をせねばならぬぞ、

十五、苦しとて體動かし悶ゆるな手當の邪魔になる計りなり、

とまごめられてありました。

中央のガラス箱の中には實物及模型の胎兒が十月の順を追うて示されてゐました。

二部の養護の部では美しい人形で子供の負ひ方抱き方の善惡を示し、町家風の内儀が赤坊の首を胸に押しつけて固く抱いて居るのに引換へ、束髮の奥様が左手は軽く頭部のうしろを支へ右手は一寸脊中に入れて赤兒を平らに抱いてゐるのを並べ、うしろのガラス箱には老婆がねんねこの中に赤兒のくびを埋め、女中が脊中に頭をおしつけて負うてゐるのと兩方惡きに反し、中央の若い母が前から赤兒の顔が明らかに見得る様嬰兒の體を斜に負ふて居るのをよいとしてあります。左手に一列藁のおはち入れが

並んでゐると見たのは各地の搖籃でありました。

兒童と色盲の所には男兒の百人中四、五人は色盲で女兒は男兒の十分の一より少く、且つ誤る色は赤色と綠色とを灰色又は褐色とする事で、青色と黄色は決して誤らぬと書いてありました。兒童に見せて悪い本としては文字の小さなもの、色彩の強いもの、畫の中に文字ある事の三ヶ條が實物と共に擧げてありました。更に進み行くと林間學校やら夏期休暇の海水浴さては朝の體操による兒童の健康増進の表や寫眞の數多い中にかこまれて朝海幼稚園の出品なる玩具恩物類の滅菌箱が目につきました長さ三四尺の長方形の木製の箱を三段に分ち欄上に滅菌する品物載せその下にフォルマリン三〇・〇過マンガン酸カリウム三〇・〇水三〇・〇を入れた壺をおき箱の戸を密閉して十時間以上おくのださうで出來得るならば各幼稚園に備へ度いと思ひました。實踐女學校は「現今家庭に於ける保育の理想と實際」と云ふ題目の中で子供に對する危險の種類を畫の表で表し、

山と海の危險、交通の危險、讀み物見物の危險、動物の危險、二階と階段の危險、火傷の危險、おやつの危險、玩具の危險、藥繪の具の危險、縁側

の危険、牛乳の危険、添寝の危険、

をあげそれを防止する方法として兒童組合の必要を
とき學校神社寺院内の空地を利用して監督者をお
き、費用は組合員より取り立てる由にて尙理想の保
育所を立てるならば左の如くにし度しと假想保育所
が説明してありました。

敷地三百坪(内芝生百坪、花壇及植込四十坪、雨天
用上屋一棟二十五坪、監視人管理者住宅一棟三十
五坪)小山一ヶ所、小池一、砂場一基、ブランコー
遊動木一、滑臺一、障礙物二、三ヶ所、井戸洗湯一、
門二、組合員三十五戸、兒童六十四名(内三歳乃至
六歳三十六名七乃至十歳二十八名男兒三十四名女
兒三十名)

これも近頃の兒童に對する社會改善の聲の表れと
して面白く思ひました。階上中央に當る所に長くも
東宮殿下淳宮高松宮の御使用遊ばれた御机がそれぞ
れ御年齢を経て大小六脚を据ゑ奉り御質素な又御兄
弟一つの御机を受けつぎ給ふ御美德を一般にお示し
遊ばされて有難いと存じ上げました。その前の廣場
にフレイベル館が理想の幼稚園として運動用具の模
型に戯れてゐる豆人形を飾り、進みて三部に入れば

住居と用品の部で、入澤博士夫人の兒童の寢室と居
間を兼ねたものとして寢臺の片側に布團を積み上げ
カーテンを引き晝は半分毛布を敷いて長椅子とする
のやテーブル本箱オルガン腰かけのシーソーその他
の室内運動具を備へた瀟洒な一室が考案されてあり
ました。府立工藝學校では如何にも兒童の喜びさうな
鳩の形をした腰掛車、四五尺もありさうな虎でおす
と聲を出す大きな玩具、玩具をのせて遊べる机長椅
子に至る迄子供向きな彫刻や意匠が施され、直きに
壞れてしまつて片手にのせられる様な唯精巧を旨と
した様な此の頃の玩具の缺點を補つたよい物が陳列
してあり、大人でもその前を暫し行き兼ねました。

疾病の部は全く専門的で傳染病の模型その他藥品
類が所狭き迄並べられ、殊にトラホームが田舎の老
婆の上京によりお土産として全家にうつされた慘事
や、或は電車内で、或は書本より或は學校の友達よ
り又公園のベンチ等よりうつる有様が恐ろしく晝に
かゝれました。宮本仲氏の危険調として委しいもの
が又表になつてをりました。

此の部に入ると、體溫器検査で普通賣買される體溫
器は誤が非常に多く内國製第一種は百本に對して正

しい物が僅かに十七本、同じ二種は四十二本、三種は九本、四種は五十三本、五種は二十八本、六種は二十五本、外國製のは第一種六十本、第二種六十三本の割合とは醫者の次に信用して喜憂の標準となるもの丈に驚かれました。榮養の部では警視廳の「誕生より入學迄の衛生」の中に、繪の具は紅朱に鉛丹、黄に劇物籐黄又はクローム黄、緑にもクローム黄等の有毒な染料がある由籐黄(ガンボーチ)の如きは僅かで劇しい下痢を起す事をかゝれ色鉛筆は蠟を基礎にする故とける心配なけれど、なめぬがよく、紫鉛筆はかけらが目に入つても失明する由。近頃玩具には有毒性著色料取締規則發布以來繪具は改良され昔用ひられた雌黄、花緑青等の砒素を含むものはなくなり、現今の彩色は殆んど無害なテール色素か又はたとへ有毒な鉛丹、クローム等を用ひてあつてもブリキや印刷エナメル塗又はゴム、ワニス等に融和して剝離せぬから無害なる由が美事な實物にそへてそれぞれ認められてありました又兒童にあたへる飲食物の中で注意すべきものとして、サツカリン入の甘酒、はんべん、防腐劑入のかまぼこ、硫酸入の酢、銅分の多い青豆、ゴムほうづき、しんこ細工、飴細工があ

げてありました。女子大學は各歳の兒童の三食の獻立を模型で作り、唐澤博士は人乳と人工榮養の兒童の寫真で、前者の健康に引かへ後者のやせて骸骨の様な有様を知らせ、母乳をすゝめられました。この部の出口に同く女子大學の表で不適當な食物の與へ方として「寝ながら食べる、泣く毎にたべさせる、食事にテール以外であたへる、飯事の不潔なお椀やお皿であたへる、人の口より食物をうつす、犬猫のそばで食べる、小兒の食物調理は食品に應じること、大道でうるものを食べさせる、汚れた手で取扱ふ」をあげたのはお互の注意が肝心です。階段を下りて右方は被服の部で殆んど和洋折衷の改良服で充ちてゐるのは生活改善の大きな氣運を最よく表してをります。子供連れを喜ばせる動物や木材の陳列をも見て出口の處でもう一度ふりかへると正面の階段に兒童の要求として「悪い牛乳を取り締れ、出産届を怠るな、新聞に兒童欄を設けよ、乳兒哺育所を設けよ健康診断を行へ、巡回看護婦を設けよ、大庭園を解放せよ、遊園を増設せよ、專屬學校醫をおけ、育児相談所を設けよ、適當なる食物を與へよ、子守學校の普及を計れ、適當な衣服を與へよ、母の榮養を計れ、

良乳供給所を設置せよ、子守任せをやめよ、母乳に限る」の文字を羅列してありましたのはこの展覽會

を一貫する思想として長く頭に残りました。

育兒に關する迷信的傳説

北海道

一、人見嫌する幼兒に對しては、濡雜巾にして面部を拭けば、他人に狎るゝと云ひ、又夜間泣く兒は、枕元に出刃又は小刀を置けば、泣き止むと云ふ。尙又出産時の湯を瓶に入れて、二本枕元に備置くときは母乳不足せずと稱し居れり。(石狩)

一、夫婦共厄年に相當する年に、出産せし兒は、生育鈍しと稱し、此の厄禍を避くる方法として道路の四ツ辻に産兒を棄つる眞似をし、之を拾ひ上げたる他人より其の子を貰ひ受くる等の假裝をなす例あり。(渡島)

一、脱落せし臍の緒は布片を以て包み(守袋の形)母が首に提げ永久保存す。此風習は兒童教育健全を守護する爲なりと云ふ。而して死亡したる時は其の

死體と共に埋葬すと云ふ。(釧路)

京都府

一、幼兒の屢々夭折する家庭に在りては、嬰兒の無病健全を祈るため出産後七日乃至十日位經過したるとき箕(農具)に蒲團を敷き、其上に嬰兒を置き之を他家の軒下に捨てたる如く假裝し貰兒として育つるときは無病健全なりと云ひ豫め拾ひ主と打合せ置き吉日を選び拾ひ主より晴衣を著せ捨てたる主婦を招き祝宴を開き嬰兒の前途を祝福し貰ひ受け歸るを例とせり。(市郡を通じて行ふ)

大阪府

一、大阪中東區高津自性院、東平野町柳寺に幼兒の蟲封じと稱し約一週間前後祈禱を爲し守札を與へ是によりて幼兒が蛔蟲に基因する種々の病氣の爲發

内務省